

私は二高に入学してからずっと、自分の進路について深く悩んでいました。周りの人が自分の進路目標を定めていく中で、移り気な性格の私は将来何の職業に就きたいのか明確にならず、悩んでいました。そんな中、この東京方面大学見学会への参加を決めました。自分には東京大学を目指すほどの実力はないけれど、何か刺激を受けることができればと思ったからです。企業見学では、将来就きたい仕事の候補である外交官について知るために、外務省を選びました。

見学会初日は、まずディレクトフォーアスがありました。この企画は、私が一番役に立ったと思う企画でした。まず、笹川平和財団の田中伸男さんの講演を聴きました。田中さんは以前、国際エネルギー機関 IEA の事務局長を務めていらっしやったということで、主に資源や原子力発電に関わるお話でした。私が一番驚いたのは、田中さんが日本の歴代の首相や、世界各国の要人にたくさん会っているということでした。国際機関で活躍するには、このような人と親しいことを示すことも大切であるということでした。グループセッションでは、7人の講師の方のお話を聞きました。1クール目は、フォトグラファーの富永夏子さんと、日高将博さんのお話を聞きました。お二人はハンセン病の患者、元患者の方々の支援を専門としているそうです。私は、支援といったら治療や生活の手助けをするのだと思っていましたが、日高さんが、「今こうして皆さんにハンセン病について話すことも大事な仕事の一つなんです。」とおっしゃっていました。薬により治療して治る病気となった今も、うつるのではないかという偏見や家族も差別に巻き込まれるからといった理由で、故郷に帰れず、思い通りに結婚や仕事ができないという問題が残っています。そのような問題の解決には、事実を伝えることが大切だと思いました。2クール目は長崎文康さんのお話を聞きました。長崎さんは海外で働くときの心構えとして、「人の体に触れない」「目を見て話す」ということが大切だとおっしゃっていました。やはり、日本と海外では文化が違うので、体に触れられることなどに不快感を感じる人もいます。また、私たちの将来を決めるにあたって、自分を見つめ直すこと、将来やりたいことから逆算して何をすべきかを考えることが大切だとアドバイスをいただきました。とても貴重なアドバイスでした。3クール目は、但木芙美さんと村上悠平さんのお話を聞きました。但木さんは格差の解消に努めているそうです。私は、事前の質問として、「治安・経済面などの格差の中で、最も優先して解消すべきだと思う格差は何ですか。」という質問をしていました。これについて、ただ何でも支援でやってあげる訳ではなく、開発を中心にして、途上国の人々が自ら働き、賃金で自律した生活を営むという持続的な安定となるように、経済面での格差の解消が必要だとおっしゃっていました。また、政府援助の ODA は、支援している国の人々だけではなく、支援する側の日本にも利益があるようにすべきだとおっしゃっていました。但木さんは自分のやりたいことや考えが明確で芯がしっかりしていて、目的に向かってまっすぐ進んでいるところが本当にかっこいいと思いました。最後の4クール目は、田

部揆一郎さんのお話を聞きました。海外で仕事をするうえで大切な三つのことについて話してくださいました。一つは、英語が話せること。田部さんは公用語が英語ではない国で仕事をすることも多かったそうですが、だいたいの場合、仕事相手も英語が話せる人だったそうなので、まずは英語が話せるということが大切だそうです。二つ目は、柔軟な考え方を持つこと。また、その考えを的確に相手に伝えるコミュニケーション能力も哀切だそうです。三つ目は、健康な体を保つこと。残業、出張が多いうえ、海外の食事は口に合わなかったり、栄養素が偏ってしまうことが多いそうです。そんな環境に負けない体をつくるために、高校生のうちには部活などで体を動かすこともいいとおっしゃっていました。高校生のうちにはやっておくべきことは、部活動など集団での活動を通していろいろな人との関わりを持ち、何か趣味を見つけることだそうです。また、広い知識をつけ教養を深めるのも大切だとおっしゃっていました。田部さんの話はどれも興味深く、ためになるお話でした。中でも私が一番印象に残ったのは、「立派な人には人がつく。」という言葉でした。そのために、いただいたアドバイスを基に自分なりに頑張りたいと思います。どの講師の方もご自身の経験に基づいたとても役立つお話やアドバイスをしてくださいましたが、どの講師の方も共通しておっしゃっていたのは、「興味を持ったことに色々挑戦してみることが大切。」ということでした。今まで私は自分の興味・関心より、将来の安定性などを重視しすぎていたのかもしれませんが、でも、その職に就いて働くのは私だし、やはり一番はやる気がなければ、中途半端になってしまうと思いました。ディレクトフォースは、今までの考え方を変えてくれたいい機会でした。

次に東大オープンキャンパスと OB・OG 懇談会についてです。東大では、時間の都合上講義などは受けられませんでした。とても敷地が広く、建物に趣がありました。また、図書館が至る所にあって、とても資料がほうふんだなと思いました。OB・OG 懇談会では、どの先輩もテストの順位が十番台くらいだったと言っていたので、やはりそれくらい頭がよくないと入れないんだなと思いました。苦手な克服には効率よく大量に問題を解くと良いとおっしゃっていました。そのために、間違った問題だけを解く方式で問題集を何周もすると良いそうです。私は心配性なので、テスト勉強などで問題集をやるとき、二周目でも一度あたった問題もやってしまっていたので、期末考査では間違った問題だけをたくさん解くようにしたいです。また、就寝はいつも 12 時前にするようにしていたとおっしゃっていました。私は行動が遅いので、やらなければならないことをすべてやろうとすると 12 字を過ぎてしまうことがあります。でも、体調を崩しやすくなるし、受験期までこの習慣を続けてしまうと大変になるので、早めにやめようと思いました。東大生の先輩と自分を比較し、反省することができて良かったです。

次に、外務省見学についてです。見学に行った時間はちょうど職員の方々が多く出勤してくる時間で、続々と職員の方々が入って行っていました。後でいただいた資料によると、本省には二千五百人、在外公館には三千四百人の職員が働いているそうです。その 3 割が女性だそうです。男性と同じような仕事内容で働くそうです。一通り省内を見て回った

後、質問コーナーがありました。英語は必須ですが、今ぺらぺらに話せなくても入省してからの研修で身につけることができるそうです。また、専門職だと他の言語も必要だそうです。高校生の今やっておくべきことは、興味があることに何でも挑戦してみることと、柔軟な考え方をもち主張をしっかりとできるようにすることだそうです。実際に外務省を見学して、様々な重要な仕事を扱っているんだなということが分かり、本当にすごいと思いました。

この会を通して、自分の将来をどう決めていくかについてたくさん情報を得ることができました。これを生かして良い選択をしていきたいです。